


研究者総覧：林 誠 (HAYASHI, Makoto)

氏名	林 誠 (HAYASHI, Makoto)	
職名	准教授	
所属講座	日本語文化専攻日本語教育学講座	
学位（専攻分野）	博士（言語学）・ University of Colorado at Boulder	
メールアドレス	hayashi@lang.nagoya,u.ac.jp]	
個人のホームページ	http://www.makotohayashi.weebly.com	
研究分野	会話分析	
	相互行為と文法	
	機能主義言語学	
現在の研究テーマ	会話での言語使用に見られる文法現象の相互行為的分析	
所属学会	International Society for Conversation Analysis (ISCA)	
主要著書・論文	林誠 (近刊). 「会話分析と多言語比較」 『会話分析の広がり』 (平本毅他編) ひつじ書房.	
	串田秀也・平本毅・林誠 (近刊). 『会話分析入門』 勁草書房.	
	Hayashi, M., Raymond, G. & Sidnell, J. (2013). <i>Conversational Repair and Human Understanding</i> . Cambridge University Press.	
	林誠 (2008). 「相互行為の資源としての投射と文法 — 指示詞『あれ』の行為投射的用法をめぐって」 『社会言語科学』 第 10 巻第 2 号, pp. 16-28.	
	Hayashi, M. (2003). <i>Joint Utterance Construction in Japanese Conversation</i> . Amsterdam: John Benjamins.	
自己紹介文	<p>私は、言葉は「生き物」だと考えています。その「生き物」がもつとも自然に生息する環境、すなわち人間の日々の暮らしの中の実際のコミュニケーションの場面にこそ、言葉という生き物を理解する鍵が隠されていると考えます。そうした視点から、日常会話やその他のコミュニケーション場面に見られる言語使用を詳細に分析し、言語の本質を探ろうというのが私の研究テーマです。質的社会学の方法論として生まれた会話分析の分析ツールを用い、言葉の構造（文法）とコミュニケーションの構造の間にどのような関係があるのかを探ることを目指しています。</p> <p>私は、名古屋大学に赴任する前はアメリカのイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校に 16 年間務め、主に外国語としての日本語</p>	

	<p>教育と言語学、会話分析の授業を担当しました。名古屋大学では、学部生向けの英語と大学院生向けの第二言語習得研究概論を担当しています。学部生向けの授業であれ、大学院生向けの授業であれ、常に「自然な環境での言語使用」という側面に注意を払う授業を行っていきたいと考えています。</p>  <p><i>Conversational Repair and Human Understanding</i></p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>一見ランダムに見える日常の雑談も、実は極めて秩序だったやり方で行われています。日常生活のさまざまなコミュニケーション場面での人間行動（そしてその重要な部分をなす言語行動）をつぶさに観察し、そこに浮かび上がってくる秩序を発見する面白さを伝えたいと思っています。言葉やコミュニケーションへの関心を通して、私たちの「日常生活のしくみ」の解明にみなさんと一緒に取り組んでいければと考えています。</p> <p>自然なコミュニケーション場面の言語使用を分析する研究であれば方法論にこだわらず相談に乗りますが、一番の関心は会話分析の方法論をしっかりと身につけた上で取り組む研究にあります。ただ、研究テーマは第二言語習得であろうと、母語話者間の相互行為の分析であろうと問いません。また、扱う言語は日本語に限らず、さまざまな言語での相互行為の分析に関心を持っています。会話分析は、あらゆる言語での日常会話に見られるメカニズムを解明するための分析ツールを提供するものですから、どのような言語であれ、それが自然場面での相互行為であれば分析の対象となります。多言語間の対象研究にも興味があり、実際、さまざまな相互行為上の現象について、これまで日本語と韓国語、日本語と英語の対象研究を行ってきました。そうした研究に興味をもたれている方も歓迎</p>  <p><i>Joint Utterance Construction in Japanese Conversation</i></p>

します。

研究テーマは思いつきではなく、自分の関心事についての入門書や論文にあたっただけで、具体的なトピックを持って相談に来てください。会話分析はとてもパワフルな分析ツールですが、身につけるのには努力と時間がかかる分野で、まだしっかりした研究ができる人が少ないのが実情です。一緒に研究して、日本の会話分析を盛り上げていきましょう！